

令和7年度 柏市地方創生総合戦略評価委員会 補足



1. 考えられる未達要因や達成に向けて今後必要と思われる取組み・アイデア
2. 事前意見・質問に対する補足説明

令和7年12月23日（火）

基本目標 1

子育てに関する情報の充実

- ・ はぐはぐ柏のInstagramにおいて、公式アンバサダーの投稿がフィールド一覧を見ても、わかりにくいと感じた。市民の投稿は需要があると思うため、他投稿との差別化など見やすい状態にさせてもよいのではないかと思う。
- ・ 他県では県単位での各地のおすすめスポットなど子育て世代が行きたくなる情報が集約されているSNSがある。その中ではぐはぐ柏のような施設を紹介されているのを多々見受けられる。
- ・ アクセス数の減少の一因として「子育てサイト」というキャッチコピーがうまく伝わっていない可能性が考えられる。
多くの方にアクセスしていただけるよう、サイトの目的や対象、内容がわかりやすいキャッチコピーとすることはどうか。

1. 考えられる未達要因や達成に向けて今後必要と思われる取組み・アイデア

つづくも
つなぐ。

基本目標2

フレイル予防の推進

- ・「高齢者の就労・社会参加促進事業」に関して、今後の課題方針中に「一方で、事業所へのアプローチや求人ニーズの把握に更なる改善の余地があることから、高年齢層の方々が取り組みやすい求人の分析や事業所への業務の切り出しに着手する。」と記載されているが、業務内容や勤務条件が高年齢層の体力・生活リズムに必ずしもマッチしていない可能性があるのではないか。
例えば、「就労のステップ（週1回・数時間）」や「経験を活かした役割型の参加」など

基本目標3

手賀沼・東部地域を核とした観光・交流の創生 柏駅周辺のにぎわいと魅力の創出

- ・道の駅しょうなんを活用した消費拡大施策について、大学や学生と連携し取組むことはどうか。
- ・歩行量調査から地域活動や公共施設、自治会・町会等への参加促進と結びつけられればよいと思う。
分析AIカメラデータを活用し、行動分析や行動特性などを調査してはどうか。

2. 事前意見・質問に対する補足説明

基本目標 1

親子で交流できる場の充実

事業

～はぐはぐひろば（地域子育て支援拠点）事業の整備運営～

地域子育て支援拠点の利用者が目標を上回る結果となっている一方で、施設が混雑する機会が増加しているとの課題が挙げられています。現在、混雑緩和のために入場制限や利用時間制限が行われていると承知していますが、特に乳幼児親子にとっては、安全性だけでなく快適性が確保されることが重要であり、抜本的な課題解決には拠点の拡張・増設や、相談体制の充実等の更なる取組が必要になってくると思われます。今後、市としてこれらの課題に対しどのように取り組んでいけるのか、具体的な方針があれば教えてください。

令和8年度に（仮称）柏市こども・若者相談センター内に地域子育て支援拠点として「はぐはぐひろば若柴」を設置を予定しております。

「はぐはぐひろば柏たなか」は、柏の葉地域の方の利用も多いことから、利用者の分散がなされると見込んでおります。

地域子育て支援拠点を単体で増設する予定はございませんが、複合施設整備の際は、必要性について関係各課と協議を行ってまいります。

2. 事前意見・質問に対する補足説明

基本目標 1

親子で交流できる場の充実

事業

～はぐはぐひろば（地域子育て支援拠点）事業の整備運営～

大幅利用者増となっておりますが、新規開設の「はぐはぐ広場柏たなか」の分を差し引いた既存施設については例年と大きく差はなかったのでしょうか？「総合相談窓口」で受け付け、相談内容に応じた適切な支援につなげた件数を教えてください。

はぐはぐひろばは現在「柏たなか」と「沼南」の2拠点で事業を行っており、既存の「沼南」において、柏たなかには及ばないものの、前年に比べ、約2,500人の利用増加がございました。

「総合相談窓口」については、令和8年度に開設予定の（仮称）柏市こども・若者相談センターにて展開予定です。そのため、こどもに関する相談は各課で担っており、令和6年度実績については以下の通りです。

- ・家庭児童相談件数：2,077件（うち児童虐待対応件数：1,207件）
- ・子育て支援アドバイザー相談件数：1,159件の相談
（支援が必要な相談者を延べ24件、関係機関へお繋ぎしました。）
- ・保育施設に関する情報提供、子育て支援事業・申請案内、その他保育に関する相談件数： 5,287件
（窓口：4,557件、電話相談：730件）
- ・妊娠子育て相談窓口：妊娠届出者3,063人のうち、要支援者788人を相談担当者へお繋ぎしました。

2. 事前意見・質問に対する補足説明

基本目標 1

子育てに関する情報の充実

事業

～「子育てサイトはぐはぐ柏」，「はぐはぐ柏Instagram」及び「柏公式LINE（子育て・教育ジャンル）」の運用～

「子育て関連情報ページのアクセス数」は目標値を大幅に下回っている。これは、子育て世代の情報収集手段が多様化している現状に対応しきれていないことが考えられる。LINEやInstagramといったSNSの利用強化だけでなく、それぞれのプラットフォームの特性に合わせたコンテンツ（例えば、LINEでは緊急性の高い情報や手続き案内、Instagramでは視覚的に訴えるイベント告知や子育ての様子を伝える写真・動画など）を工夫する必要がある。

また、情報過多にならないよう、AIを活用したパーソナライズされた情報提供や、子どもの年齢や興味に応じた情報絞り込み機能の導入なども有効ではないか。

さらに、SNSを活用した情報発信について、今後はどのようなコンテンツや運用方針を考えていますか。特に、情報弱者への配慮や、必要な情報が確実に届くための工夫があれば教えてください。

柏市公式LINE（子育て・教育ジャンル）の登録者数と、はぐはぐ柏Instagramのフォロワー数を比較すると、どちらか片方しか登録していない方がいる可能性があり、完全に情報を振り分けることは現時点では難しいと考えております。ただし、プラットフォームによる特性は投稿内容に反映すべきであることから、プラットフォームに合わせて投稿内容自体を調整していくことを次年度の課題といたします。

また、柏市公式LINEの配信では、毎月こどもの年齢に合わせた情報の発信を行っており、柏市公式LINEを登録している保護者が、子どもの生年月日を登録しなければ受信できない仕様となっております。あわせて、市の子育て支援施設へのポスター等の掲示だけでなく、手元に直接届く形での周知も検討を進めてまいります。

はぐはぐ柏Instagramについては、現時点では写真投稿が主ですが、シティプロモーション課のプロモーションとコラボした「はぐはぐ柏Instagram公式アンバサダー」の投稿が1万を超える閲覧数となったこともあり、今後は短い動画投稿の検討を進めてまいります。また、情報発信を行う内容を庁内で募るため、今夏に全庁周知を行った結果、庁内からの問い合わせが増加しております。

2. 事前意見・質問に対する補足説明

基本目標 1

子育てに関する情報の充実

事業

～「子育てサイトはぐはぐ柏」，「はぐはぐ柏Instagram」及び「柏公式LINE（子育て・教育ジャンル）」の運用～

子育て支援施設に限った情報だけではなく、観光地や周辺の公園や店舗など子供を複数人、各世代で遊ばせやすいような情報をまとめ動画などで周知できると訴求し易いと思うのですが、そういった投稿者に寄稿ではなく投稿を依頼をするというのは難しいのでしょうか

「はぐはぐ柏Instagram」についての御質問と捉え、回答いたします。

現在、「はぐはぐ柏Instagram」の投稿内容は、所管課からの依頼・画像等の提供により発信しています。また、市内の観光地や周辺の公園、子育て世帯にも使いやすい店舗等の情報は、令和6年度より本格開始した「はぐはぐ柏Instagram公式アンバサダー」による投稿で、市民目線から発信していただいています。そのなかで、今秋、シティプロモーション課とコラボレーションした、子育て世代におすすめの場所をテーマとしたリール動画の閲覧数が大きく伸びていることから、動画での投稿数を増やす取り組みを次年度の課題としています。

ただし、投稿に際しては、公式アカウントのセキュリティ上、外部とのアカウントの共有は誤配信等のリスクがあるため、所管課であることも政策課の職員が行う体制を継続する方向で検討しています。SNSの即時性と、公式アカウントの正確性を担保した情報発信を両立できるよう、投稿の流れについては調整・検討を進めてまいります。

2. 事前意見・質問に対する補足説明

基本目標 2

生活習慣病対策の推進

事業

～ウォーキング推進事業～

ウォーキングパスポートの配布や啓発イベントは実績を上げているが、具体的な健康寿命への影響を定量的に把握することが重要。また、アプリへの組み込みは良い取り組みだが、アプリのダウンロード数、継続利用率、歩数データなどを詳細に分析し、その効果を検証する必要がある。

また、アプリ機能のさらなる充実（個別目標設定、チームでの競争、専門家によるアドバイスなど）や、ウォーキングルートの多様化（地域の魅力的なスポットを巡るコース設定、季節ごとのイベント連動など）により、参加者のモチベーション維持と継続的な運動習慣の定着を図ることが求められる。

ウォーキング推進事業の「健康アプリ事業」について、ダウンロード数や利用者の継続状況に関する中間報告があれば教えてください。また、利用者のエンゲージメントを高めるための今後の改善策や目標があれば教えてください。

ダウンロード数についてご報告します。

令和7年10月末時点での登録者数は23,204人です。また、10月の最終週(10/27～11/2)の1週間で1回以上アプリを利用したユーザー率は49%でした。令和7年度にスタートした事業ですが、今後は、ウォークラリー等の各種プログラムの充実や健康情報の提供など登録した方が楽しみながら続けられる仕組みを検討してまいります。

ウォーキングパスポートをアプリへ取り込むとのことですが、冊子の配布は終了でしょうか。

冊子の配布は令和6年度で終了しましたが、冊子の残数がある間は、ご希望者に配布をしています。

2. 事前意見・質問に対する補足説明

基本目標 2

生活習慣病対策の推進

事業

～ウォーキング推進事業～

男性の健康寿命が伸び悩んでいる要因について、具体的な分析結果があれば教えてください。また、今後、男性に特化した健康増進施策としてどのような取り組みを計画していますか。

具体的な分析結果はありません。

男性に特化した施策は設けていませんが、第2次健康増進計画に沿って柏市全体の健康寿命延伸を目指しています。

具体的には、生活習慣病予防、健診受診率の向上、ワニFitを活用した健康的な生活習慣の定着などがあり、これらの取り組みが男性の健康寿命改善にもつながると考えております。

平均寿命を指標にしていますが、健康寿命の相関関係がわかりづらいことと、提示されたグラフの解釈をどのようにしたらよいのか、ご説明いただきたい。

また、ウォーキングこの指標と事業の関連性として、若年層への働きかけを健康寿命の取り組みとした理由を教えてください。

平均寿命は『生きている年数』を示す指標ですが、健康寿命は『自立した生活を送れる年数』を示しており、この差を縮めることを目指しているため、評価指標としています。

ウォーキングパスポートを健康アプリにしたことで、幅広い層へアプローチできるようになりました。早い段階から運動習慣を定着させることで、中高年期以降の生活習慣病リスクを減らし、長期的に見て継続的な健康寿命の延伸に繋がるものと考えます。

2. 事前意見・質問に対する補足説明

基本目標 2

フレイル予防の推進

事業

～高齢者の就労・社会参加促進事業～
～かしわフレイル予防ポイント制度～

社会参加に取り組む高齢者の割合（人数）はどのように算出しているか。

窓口来訪者数で算出しています。延べ人数でカウントしているため、1人の人が複数回相談していることもあります。

フレイル予防において、高齢者以外の若年層・中間層への働きかけはどのように考えていますか。

特に、効果的なアプローチ方法や具体的な取り組みがあれば教えてください。

若い世代に対しては、将来のフレイル予防につながるよう、まずは「フレイル予防」の認知度向上や、健康づくりの重要性を周知していくことが重要と考えております。

若い世代を含む多世代が多く参加するイベントに参加し、全身の筋力を反映する握力測定などを行うことで、健康づくりへの気づきを促し、フレイル予防の周知や、健康アプリの利用を促す取り組みを実施しているところです。その結果、若い世代でも、市内在住者のフレイルの認知度は高い状況となっております。

基本目標 2

フレイル予防の推進

事業

～高齢者の就労・社会参加促進事業～
～かしわフレイル予防ポイント制度～

指標となっている「社会参加に取り組む高齢者の割合」はどのように算出していますか。

また、事業所へのアプローチや求人ニーズの把握に更なる改善の余地があるとのことですが、具体的にはどのようなことが挙げられますか？また、今年度はそのような課題認識がありながら、特に対応されなかった理由は何でしょうか。

パレット柏にある、かしわ生涯現役窓口の来訪者数で算出しています。

現状として人手不足なのかどうかや高齢者を活用することに対して関心があるかなどを事業所に対してアンケートを実施します。現在はアンケートを実施し、ニーズ把握をしている段階です。今後アンケートの回答のあった事業所に対してアプローチをしてまいります。

ポイント制度の登録者数の増加と社会参加の促進はどのような相関関係があるとお考えでしょうか。指標となっている「社会参加に取り組む高齢者の割合」は未達ですが、これはどのように解釈されていて、どう対策を打たれるのでしょうか。

本制度では、利用者に配付するポイントカードを通じ、活動状況を把握できるため、社会参加に取り組む高齢者の割合が増加していることを確認しております。加えて、利用者アンケートからも本制度利用により「活動を始めた」「活動量が増えた」と回答する割合が高いことから、登録者数の増加が社会参加の促進に寄与するものと考えています。

指標については、セミナー及び健康アプリでの周知により、指標の算出に用いた「かしわ生涯現役窓口来訪者数」は目標を達成できる見込みです。

2. 事前意見・質問に対する補足説明

基本目標 2

生活習慣病対策の推進

事業

～かしわフレイル予防ポイント制度～

「カード方式に関する運用面での課題がある」とありますが、こちらの課題は、何になりますでしょうか。

ポイント付与が「参加のきっかけ」にとどまらず、継続的な参加や健康行動の定着につながっているかを測る指標は検討されていますでしょうか。

カード方式における課題は、ポイント付与端末不足により平等なサービス提供ができない状況であること、利用者増加に伴う事業費（ポイント費用、カード購入費用）が増加し続けることです。

令和7年度より開始した「かしわ健康アプリ」では、WAU（1週間で1回以上、アプリを利用したユーザ数）を計るなど状況の把握に努めています。

2. 事前意見・質問に対する補足説明

基本目標3

手賀沼・東部地域を核とした観光・交流 の創生

事業

～手賀沼及び手賀沼周辺地域
活性化事業～

RESASの集計方法が変わったため、これまでの数値との大幅な差異が生じているとのことですが、集計方法の変更内容や変更前後の数値の関係性の有無、変更後の数値を市としてどのように評価されているのかなどについて、お分かりになる範囲で教えてください。また、目標達成に向けた今後の具体的施策として、どのようなイベントや施設整備を計画していますか。

2025年3月7日にRESASの新システムの提供が開始され、大規模刷新されました。主な変更点は以下のとおりです。

- ・元データの入手先がゼンリンデータコムからLocationMind社に変更
- ・流動人口のカウント方法が「5分滞在」から「15分滞在」に変更
- ・メッシュが「500m」から「250m」に変更

過去にもシステムリニューアルにより数値が大幅に変わった経緯があり、その際はシステムが過去の流動人口を遡って算出できたことから、新基準を算出して新たな目標値を定めました。一方で、今回の新システムでは過去検索が一切できない仕様になっていることから、RESASのみでは数値の比較ができない現状です。

あくまで推計値とはなりますが、数値として把握している道の駅しょうなん及び手賀沼フィッシングセンターの令和5年4月の観光入込客数と令和6年4月の観光入込客数を比較すると、約8%増となっており、これを令和5年度評価時の「73,775人」に乗じると、令和6年の実績値は「79,677人」となります。

今後の具体的施策としては、手賀沼の水辺空間を生かした新たなイベントの実施や水辺アクティビティをはじめとする体験型コンテンツの拡充、手賀沼周辺既存施設の利活用等を検討しております。

2. 事前意見・質問に対する補足説明

基本目標3

生産性の向上・消費の拡大

事業

～農業振興対策事業～

生産性の向上・消費の拡大について、柏市内の農業者が減少傾向にある中で、個別事業（個票）の事業名や取組内容から重要業績評価指標を認定農業者よりも柏市内全体の農業者数や耕作面積又は生産額などに変更したほうが、取組内容に合致するのではないか。

市内全体の農業者数や耕地面積の推移については、農林業センサスにより確認しているところですが、5年に1度の統計であることから、経年変化の細かな確認は難しいと考えています。また生産額についても、農水省より推計値は公開されているものの、品目別の正確な把握が難しく、指標への設定については、検討が必要であると考えております。

認定農業者の認定にあたりましては、生産性向上などの目標を掲げた経営改善計画書を提出していただき、その内容を審査しているところです。ご指摘のように、柏市内の農業者が減少傾向にある状況の中で、認定農業者数を増加させることは困難を伴いますが、生産性向上の取組として、認定することの利点などをPRしながら、引き続き本事業の指標として取り組んでまいります。

2. 事前意見・質問に対する補足説明

基本目標3

生産性の向上・消費の拡大

事業

～農業振興対策事業～

「農地の集積・集約や更なる機械化の推進などによる生産性向上」がこの事業の目的、内容ですが、実際に農地集積・集約や機械化推進はどの程度すすんでいるのでしょうか。データはありますか？それによって、生産性はどの程度向上しているのでしょうか。

農地の利用については、直近3年間（R4.4月-R7.3月）で、88.2haの農地を農地中間管理機構を通じて集積しています。また、令和7年3月には、地域の農業者や関係団体とともに協議を行ったうえで、「地域計画」を策定し、10年後の目標地図を作成したところです。今後も地権者や農業者の意向を確認しながら、計画的に農地の集積・集約に向けて取り組んでまいります。

機械化については、直近3年間（R4.4月-R7.3月）で国・県メニューを中心に、省力化が進む施設及び機械導入に対して、計13件の補助事業を実施しているところです。

GPSを活用したトラクターの自動運転や、施設栽培を行う農業者を中心に、環境制御装置の導入などが徐々に増えてきており、さらなる導入に向けた支援を進めてまいります。

なお、生産性向上に関しましては、お示しできる客観的なデータが存在していませんが、補助金の申請にあたっては各種目標を設定しており、補助金交付後、一定期間はその達成状況を確認しているところです。

基本目標3

柏市ふるさと産品認定制度の促進

事業

～柏市ふるさと産品認定事業～

「柏市ふるさと産品認定件数」は、目標値200件に対し実績値が320件と大幅に超過しており、これは好ましい結果である。しかし、これは「より多くの方に認定制度を知っていただくため、周知を強化するとともに、イベント時において積極的なPRを実施していく」という方針であり、現状は認定数を増やすことに主眼が置かれている。今後は、認定後の事業者の販路拡大支援（オンラインストア開設支援、地域ブランド化推進、国内外の見本市への出展支援など）や、新商品開発への助成、品質管理・安全性向上への技術指導など、認定された産品の価値を高め、事業者の収益向上に繋がる具体的な支援策を強化する必要がある。

柏市ふるさと産品認定件数の大幅な目標達成は素晴らしいですが、認定された産品の販売促進や販路拡大について、具体的な支援策があれば教えてください。また、認定品の品質向上やブランド力強化に向けた取り組みはありますか。

認定件数の目標は既に達成しており、認定された柏市ふるさと産品のさらなる販売促進・販路拡大、ブランド化推進が必要であると認識しております。現状の具体的な支援策としては、チャレンジ支援補助金による新商品開発の支援等を実施しており、また、市内の駅や道の駅しょうなん、観光案内所等で産品の常設販売をしております。さらに、ふるさと納税返礼品とも連動して、市内におけるプロスポーツチームの試合の際に訪れる市外の方へのPRや販売も実施しております。

今後は、ECサイトの開設や販売場所の増設、効果的なPRやブランド化による高付加価値の創出に向けた取組等を強化し、事業者の持続的な成長を支える仕組みを検討してまいります。

2. 事前意見・質問に対する補足説明

基本目標3

公民学連携によるまちづくりの推進

事業

～柏北部地域のまちづくりの推進～

柏北部地域の定住人口増加について、土地区画整理事業以外の住環境整備（教育、医療、商業施設等）に関する今後の計画があれば教えてください。また、公民学連携によるまちづくりの具体的な成果や、住民満足度を測る指標があれば教えてください。

○住環境整備（教育，医療，商業施設等）

北部整備課が把握している主な施設としては、次のとおりです。

1 田中中学校及び柏の葉小学校の校舎増築

(1) 田中中学校 令和7年度供用開始予定

(2) 柏の葉小学校 令和8/9年度 増築工事，令和10年度供用開始予定

2 柏の葉近隣センターの整備 令和11年度 供用開始予定

3 その他（民間）

(1) SMC株式会社「（仮称）柏の葉キャンパス新技術センター」開設(竣工)

(2) 日本製鋼所「研究開発拠点」開設 令和9年度下期開設予定

○公・民・学連携による成果

まちづくりと暮らしに係るアンケート調査（2024年にUDCKが実施）

「総合的にみて暮らしやすい」という設問に対して、最高評価の「そう思う」が5割以上、「少しそう思う」を加えると、約9割が暮らしやすいと感じております。

2. 事前意見・質問に対する補足説明

基本目標3

柏駅周辺のにぎわいと魅力の創出

事業

～公民学連携によるまちづくりの推進～

事業名が「公民学連携によるまちづくりの推進」となっていますので、具体的にどのような公民学連携を行っているのか教えていただけませんか。その取組みと、指標としている「歩行者通行量」とはどんな関係があると認識していますか。

公・民・学で構成される柏アーバンデザインセンター（UDC2）を中心として、柏駅周辺において市、商店会、商工会議所、大学が連携し、まちのにぎわいや魅力の創出に向けた取組みを行っています。

また、「歩行者通行量」については、こうした取組がまちの活性化にどの程度寄与しているかを把握するための指標です。